

## 自閉症状を示した 障害児の学校適応に関する追跡研究 V(1) ——自閉症児の普通学級適応についての検討——

園山 繁樹\*・藤原 義博・松浦 裕子\*  
加藤 悦子\*・府川 恵子\*・日浦 伸祐\*\*  
金子 充夫\*\*・菊池 一也\*\*・中沢 要之\*\*  
杉田 忠夫\*\*・平野 忠夫\*\*・小林 重雄

幼児期に治療教育・訓練を受けた後小学校普通学級に入学した自閉症児の学級適応について、我々は1年毎に経過を報告してきた。本報告はその第5報である。

本研究では、6名の自閉症児（5年生5名と4年生1名）の算数と国語の学習達成度、及び WISC 知能診断検査について調査した。以下のような結果が得られた。(1)算数の4学年レベルを達成したものは1名のみであった。(2)国語の4学年レベルを達成したものは2名であった。(3)算数と国語の学習達成度には高い相関関係が認められた。(4)WISC の全検査 I Q は 80 から 116 の範囲にあり、一般的理解と絵画配列が相対的に低く、数唱問題と積木模様が高かった。

### I 目的

幼児期に治療教育・訓練（行動療法）を受けた後、小学校普通学級に入学した自閉症児の学級適応について、我々は1年毎に経過を報告してきた（板垣他，1979；山根他，1980；板垣他，1981；園山他，1983）。本報はその第5報である。

前報（園山他，1983）では、算数の学習達成度と田中ビネー知能検査結果について報告した。そして、算数の前学年レベルをおおむね達成しているものは3名のみであり、算数の学習達成度と IQ の間に高い相関関係があることが明らかにされた。

本報では、算数と国語の学習達成度、及び WISC 知能診断検査結果を中心に検討する。

### II 方法

算数と国語の学習達成度を調べるために、教師式観点別到達度学力検査（CRT）の使用教科書を

準拠した検査を実施した。また、WISC 知能診断検査を行った。調査期間は、昭和57年7月～10月である。

### III 対象児

対象児は、小林の基準（1980）により自閉症と診断された児童で筑波大学知能障害研究室で指導を受け、昭和53年4月に小学校普通学級に入学したものの5名（5年生）と、1年間の就学猶予の後昭和54年4月に入学したものの1名（4年生、H児）である。

以下に対象児の簡単なプロフィールを示す（アルファベットで記した各児は前報と同一である）。

#### 1. A児，男児，昭和46年9月生。

主訴：他児と遊べない。落ち着きがない。指示に従えない。

出産：熟産。吸引分娩。生下時体重 3760 g。

始歩：11か月半。始語：6か月。

大学での指導：

(1)昭和51年5月～52年9月，個人指導(1/w)。

(2)昭和52年6月～12月，ゲームを中心とした小集団指導(1/W)。

(3)昭和52年10月～53年2月，課題学習を中

\* 心身障害学研究科

\*\* 昭和57年度教育研究科修士

\*\*\* 昭和57年度人間学類卒業

\*\*\*\* 昭和57年度内地留学生

心にした小集団指導 (1/W)。

(4) 昭和53年4月～家庭での個人指導 (1/W)。

2. B児, 男児, 昭和46年7月生。

主訴: ことばの遅れ。

出産: 陣痛微弱。早期破水。吸引分娩。生下時体重3140g (黄疸が強かった)。

始歩: 1歳。

大学での指導:

(1)昭和50年10月～52年9月, 個人指導 (1/W)。

(2), (3) A児と同様。

(4)昭和54年4月～57年3月, 家庭での個人指導 (1/W)。

3. C児, 男児, 昭和47年2月生。

主訴: 他児と遊べない。

出産: 熟産。正常分娩 (10か月で流産しそうになった)。

始歩: 11か月。始語1歳5か月。

大学での指導:

(1)昭和52年5月～53年2月, 個人指導 (1/W)。

(2)昭和53年1月～12月, ゲームを中心にした小集団指導 (1/W)。

(3) 昭和53年1月～2月, 課題学習を中心にした小集団指導 (1/W)。

(4)昭和53年4月～家庭での個人指導 (1/W)。

4. D児, 男児, 昭和45年11月生 (1年就学猶予)。

主訴: ことばの遅れ。落ち着きがない。

出産: 熟産。正常分娩。生下時体重2800g。

始歩: 11か月。始語: 1歳。

大学での指導:

(1)昭和50年11月～52年2月, 個人指導 (1/W)。

(2), (3), A児と同様。

(4)昭和53年4月～家庭での個人指導 (1/W)。

5. E児, 女児, 昭和47年2月生。

主訴: ことばの遅れ。ひとり遊びが多い。

出産: 熟産。早期破水。生下時体重3200g。

始歩: 10か月。始語: 3歳6か月。

大学での指導:

(1)昭和51年5月～52年9月, 個人指導 (1/W)。

(2), (3) A児と同様。

(4)昭和53年4月～家庭での個人指導 (1/W)。

6. H児, 女児, 昭和46年12月生 (1年就学猶予)。

主訴: 集団適応がよくない。(幼稚園の)先生の指示に従えない。

出産: 黄体ホルモン服用。帝王切開。生下時体重3400g。

始歩: 10か月。始語: 1歳2か月。

大学での指導:

(1)昭和50年9月～54年3月, 個人指導 (1/W)。

(2)昭和53年9月～54年3月, 小集団指導 (1/W)。

(3)昭和54年4月～家庭での個人指導 (1/W)。

(図1～図6に, 各対象児の T-CLAC のサイログラムが示されている)。

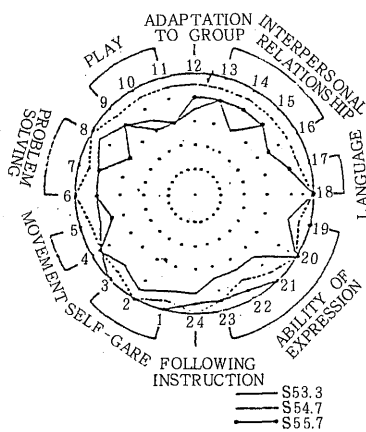


図1 T-CLAC Sub. A

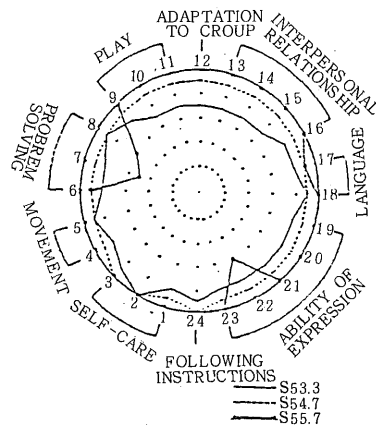


図2 T-CLAC Sub. B

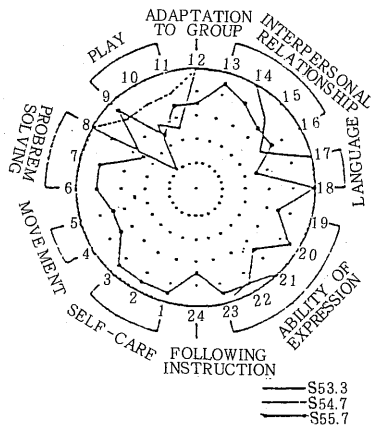


図3 T-CLAC  
Sub. C

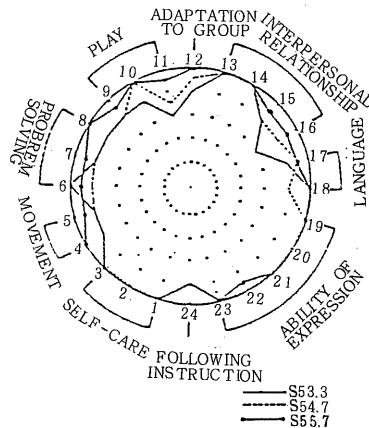


図4 T-CLAC  
Sub. D

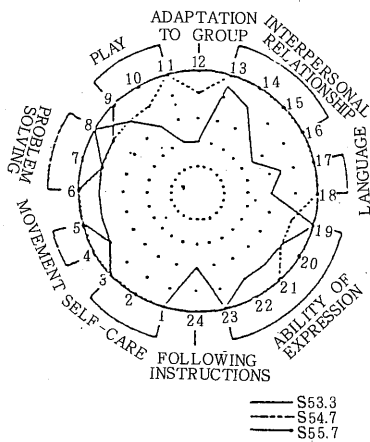


図5 T-CLAC  
Sub. E

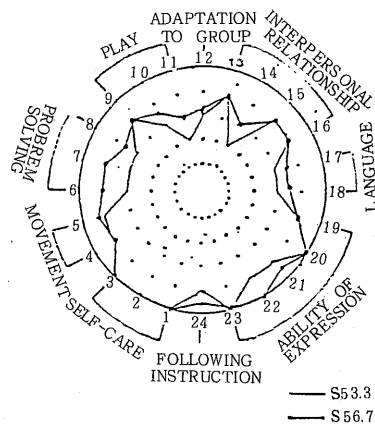


図6 T-CLAC  
Sub. H

## IV 結果

### 1 算数の学習達成度

図7にCRT(算数)得点のプロファイルが示されている。前学年のレベルを達成していると考えられるのはA児のみである。C児とE児は前々学年のレベルにある。また、B児、D児、H児では、「技能」が他の2つの領域よりもすぐれている傾向がうかがわれる。

### 2 国語の学習達成度

図8にCRT(国語)得点のプロファイルが示されている。前学年のレベルをおおむね達成していると考えられるのは、A児とE児のみである。領域別の達成度には一定の傾向はうかがわれない。

### 3 算数と国語の学習達成度の関係

図9は算数と国語のCRT得点の関係を示した

ものである(前学年の検査を実施しなかったD児は除いた)。両得点間に高い相関関係が認められた( $r = .80, p < .05$ )。

### 4 WISC 知能診断検査

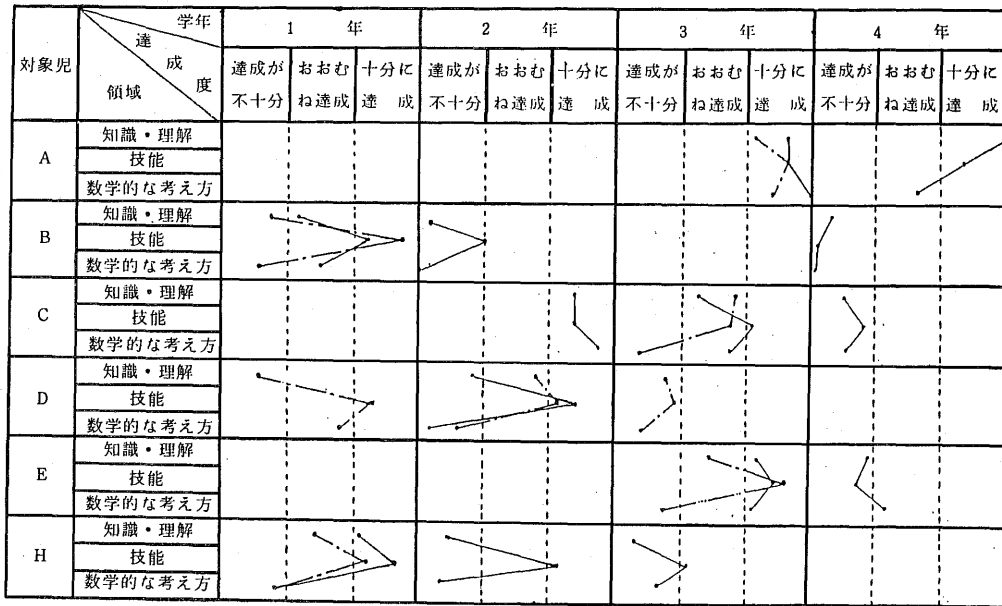
表1にWISCの各検査IQが示されている。全検査IQは80から116の範囲にある。5名は動作性IQの方が言語性IQよりも高い。

図10は各下位検査のプロファイルを示したものである。言語性検査では、一般の理解が相対的に低く、数唱問題が高い。動作性検査では、絵画配列が相対的に低く、積木模様が高い。

## V 考察

### 1 算数と国語の学習達成度

算数の学習達成度については、前回の調査(園



—— S 58  
 - - - S 57

図7 CRT (算数) 得点プロフィール

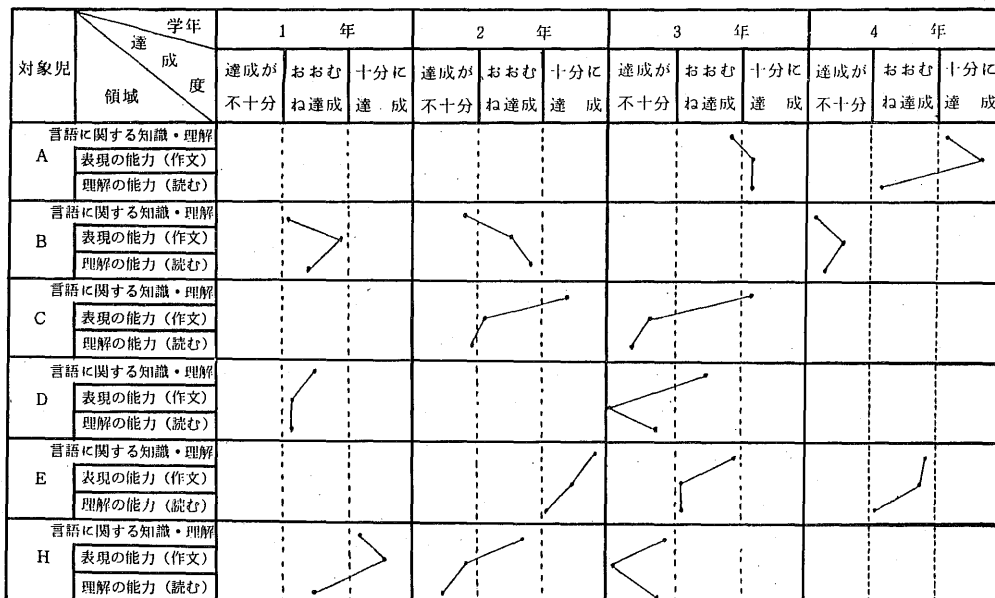


図8 CRT (国語) 得点プロフィール

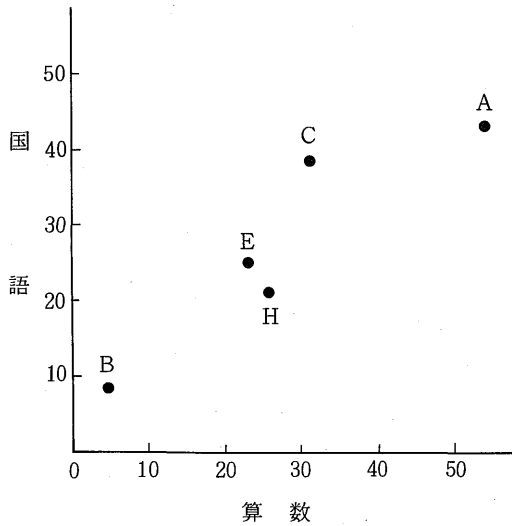


図9 算数・国語のCRT得点の関係

山他, 1983) とほぼ同様の結果が得られた。すなわち, 前学年のレベルを十分に達成しているものはA児のみであり, 3名は「技能」が他の領域よりも相対的にすぐれていた。また, 前回の調査と比較して, 前々学年以前の内容の達成度には顕著な上昇は見られない。このことから, 達成されていない前段階の学習内容をふまえた系統的な教科

表1 WISC IQ

| 対象児 | 言語性IQ | 動作性IQ | 全検査IQ |
|-----|-------|-------|-------|
| A   | 119   | 108   | 116   |
| B   | 71    | 110   | 90    |
| C   | 87    | 114   | 101   |
| D   | 79    | 101   | 88    |
| E   | 109   | 113   | 113   |
| H   | 57    | 109   | 80    |

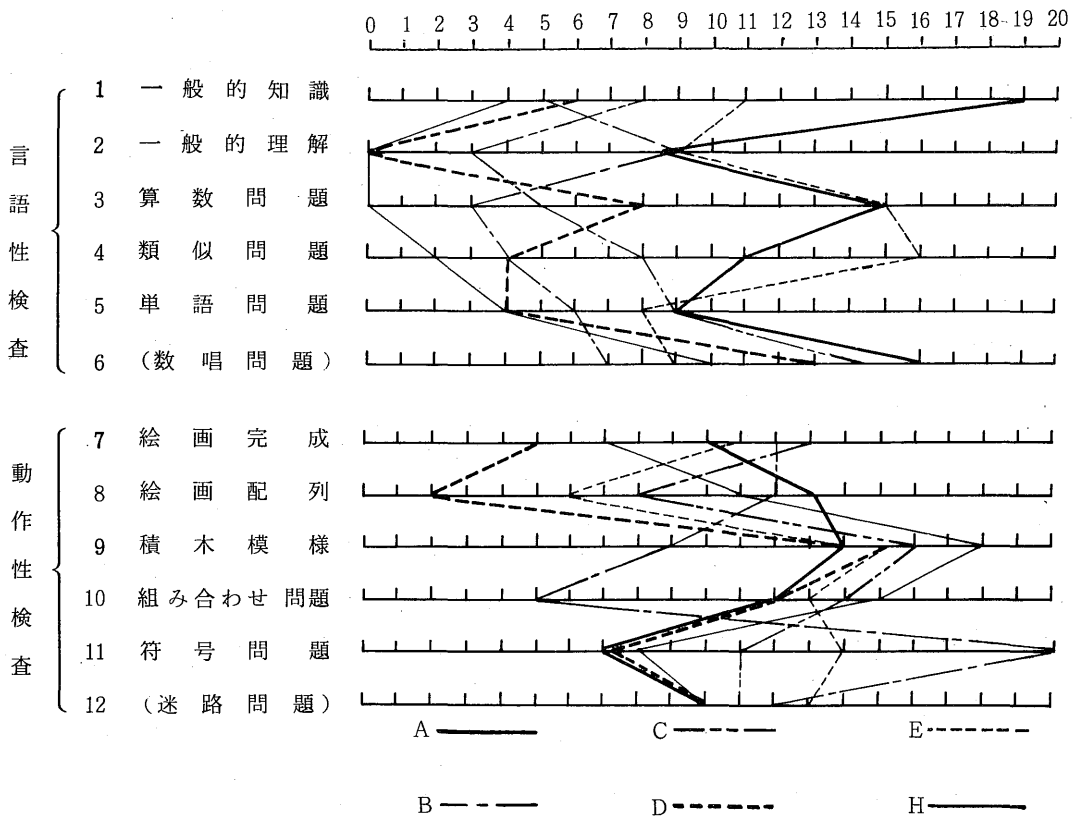


図10 WISC プロフィール

指導を行う必要があると考えられる。

国語の学習達成度については、前学年のレベルをおおむね達成していると考えられるのはA児とE児のみであった。山根他(1980)では、学習適応チェックリストを用いて、他の教科と比べ特に国語関係の項目で達成度が低く、算数関係では高いことが指摘されていた。しかし、今回の結果では、算数と国語の学習達成度との間に高い相関関係が認められた。また、両教科のCRT得点のプロフィールからも、国語の学習達成度が算数と比較して特に低いという傾向は見られない。このことは、すべての対象児が家庭での個人指導を受けてきたことの効果を示しているかもしれない。

しかし、両教科でのつまずきがどのようなものであるのか、それをどのように解決していくのかについてはこれまでに明らかにされてはおらず、今後の検討課題としたい。

## 2 WISC 知能診断検査

全検査IQは、80から116の範囲であった。前報(園山他, 1983)では、入学時のT-CLACで低得点であったE児のその後の改善に知能が関与していることが示唆された。今回の調査の対象児は、普通学級に一応の適応をみせていることから、小学校普通学級への適応状態はある程度IQによって予測可能であると考えられる。IQによる予後の予測可能性は、Carr, Jら(1976)によっても指摘されている。

下位検査を検討すると、言語性検査では一般的理解が相対的に低く、数唱問題が高かった。また、動作性検査では、絵画配列が低く、積木模様が相対的に高かった。これらの結果は、Lockyer, Lら

(1975)の結果とよく一致しており、自閉症児特有の障害を示唆しているのかもしれない。

(付記：本研究の資料集収にあたり、東習志野小学校情緒障害児学級の諸先生の協力をいただきました。記して感謝します。)

## 文 献

- 1) Carr, J. (1976)「重度の発達遅滞を伴う自閉症児」, Wing, L. 編(久保・井上監訳)「早期小児自閉症」第10章, 星和書店, 1977.
- 2) 板垣健太郎 他, 自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究 I(2)―自閉症児の普通学級適応についての検討―, 心身障害学研究, 1979, 3, 101~109.
- 3) 板垣健太郎 他, 自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究 III(1)―自閉症児の普通学級適応についての検討―, 心身障害学研究, 1981, 5, 1~11.
- 4) 小林重雄 編著, 「自閉症児」, 川島書店, 1980.
- 5) Lockyer, L. & Rutter, M., A five-to fifteen-year follow-up study of infantile psychosis: IV. Patterns of cognitive ability. Br. J. soc. clin. Psychol., 1970, 9, 152-163.
- 6) 園山繁樹 他, 自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究 IV(1)―自閉症児の普通学級適応についての検討―, 心身障害学研究, 1983, 7, 33-37.
- 7) 山根律子 他, 自閉症状を示した障害児の学校適応に関する追跡研究 II(1)―自閉症児の普通学級適応についての検討―, 心身障害学研究, 1980, 4, 82-91.

## Summary

### The Follow-up Studies Concerning School Adjustment of Handicapped Children with Autistic Symptoms V (1)

—Discussion with adjustment  
of autistic children in regular class—

Shigeki Sonoyama, Yoshihiro Fujiwara, Yuko Matsuura,  
Etsuko Katho, Keiko Fukawa, Nobuhiro Hiura,  
Mitsuo Kaneko, Kazuya Kikuchi, Yousuke Nakazawa,  
Tadao Sugita, Tadao Hirano and Shigeo Kobayashi

We have reported about how autistic children had adjusted in regular school (Itagaki et al., 1979; Yamane et al., 1980; Itagaki et al., 1981; Sonoyama et al., 1983)

In this study six autistic children were evaluated. They have been attending at regular class, five children were at the fifth grade and one at the fourth grade. They were evaluated by the Kyouken-Criterion-Referenced Test (CRT) of arithmetic and Japanese as well as the WISC.

The results were summarized as follows :

- (1) Only one subject achieved at around the fourth grade level of arithmetic abilities.
- (2) Only two subjects achieved at around the fourth grade level of Japanese abilities.
- (3) High correlation was shown between CRT scores of the arithmetic and Japanese.
- (4) The range of scores on the WISC was from 80 to 116.